町村週報

（町村の購読料は会費の中に含まれております）

2911号

毎週月曜日発行

発行所　全国町村会　〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486　FAX03-3580-5955

発行人　石田直裕：定価1部40円・年間1,500円（税、送料含む）　振替口座00110-8-47697　http://www.zck.or.jp

政策　魅力ある町村づくりを目指した社会教育からのアプローチ　文部科学省生涯学習政策局　社会教育課　地域・学校支援推進室…（2）

フォーラム　稲作活性化による地域づくり～田んぼアートを活用した地域振興～＝青森県田舎館村……（6）

情報　町村Ｎａｖｉ……（9）

随想　地球の裏側でふるさとを感じた　～ブラジル宮崎県人移住100周年に参加して～……宮崎県川南町長　日髙　昭彦…（10）

肘折温泉　春のお祝い（山形県大蔵村）

◉写真キャプション◉

華やかなひな壇が飾られるひなまつり。目も綾な金銀錦が緋毛氈に映える。月遅れの4月3日が、肘折温泉の桃の節句だ。お宿ごとに雛人形が飾られ、子どもたちが連れ立ってお宿を巡ってはおとないを告げる。

コラム

熊野古道

千葉市男女共同参画センター名誉館長
NHK番組キャスター　加賀美（かがみ）　幸子（さちこ）

「伊勢は七度（ななたび）、熊野は三度（みたび）」という言葉がある。私も伊勢参宮は何度もしているが、熊野への思いはあっても、なかなか尋ねる機会がなかった。今年1月「熊野学フォーラム」が東京で行われ参加したが、その関係でユネスコ世界遺産の熊野古道を取材で訪れた。

熊野への道は、伊勢路、小辺路（こへじ）、中辺路（なかへじ）、大辺路（おおへじ）とあるが、伊勢路から入った。思いがかない、やっと熊野古道を歩けるという期待で胸が高鳴ったのだが、初めて見る深い樹木も大きな岩も足元の石も誠に自然で、その中にすっぽり包まれて歩いている自分を感じ不思議だった。昔から霊場と言われる熊野…でもどちらかというと、その昔、私たちはこんな空気を吸っていたのではないか…そんな自然さを体で感じた。

その自然さに包まれたからか、普段から特別強いわけではないのに、なんだか足も軽く、神倉（かみくら）神社の538段も、続いて那智（なち）大社（たいしゃ）への長い道も年齢に負けず麓から登り切れた。

霊魂もこの地に集まっているとのことだから、後押ししてもらえたのかもしれない。そう思うのもやはり熊野ならではであろうか。その後、なぜか、歩くのが億劫でなくなり、普段は電車やバスに頼っていた所も、軽々と歩ける自信ができたのは、何とありがたいことか、それがご利益かもしれない。

熊野詣は古くからあったが、人々が盛んに訪れるようになったのは平安中期。しかし、都から遠く隔たった熊野への旅は容易ではなく、約30回も熊野に御幸したという後白河法皇は、落ち着かない源平争乱の中、熊野までなかなか行けなくなり、京都観音寺、今熊野（いまくまの）をお詣りするようになったという。

その地は清少納言が仕えた中宮定子を葬むる鳥戸野（とりべの）陵が近くにあったため、清少納言は定子の御陵に詣でつつこの地で晩年を過ごしたとも言われている。紀州熊野古道と京都今熊野…「古道」と「今」という言葉の響きに、今も惹きつけられるのである。

政策解説

魅力ある町村づくりを目指した社会教育からのアプローチ

文部科学省生涯学習政策局　社会教育課　地域・学校支援推進室

少子高齢化が進展し、地域コミュニティに多様な機能が求められる中、各自治体においては、子育て支援、就労対策、観光・特色づくり等様々な課題が存在します。このような現状において、学校は地域の将来を担う子供たちを育てるとともに、人と人をつなぎ、様々な課題に対応し、まちづくりの拠点としての役割を果たすことが求められています。本稿においては学校が果たすべき役割のうち、社会教育の分野について、幾つかの事例を紹介します。

1. 地域創生に向けた学校を中心とする地域コミュニティの形成

文部科学省では、学校・家庭・地域が連携・協働して教育活動を展開するための具体的な仕組みとして、地域住民がボランティアとして授業や部活動、学校行事の支援など、学校の様々な教育活動を支援する「学校支援地域本部」や放課後や週末などに子供たちに学習や体験・交流活動等の機会を提供する「放課後子供教室」など、様々な取組を推進しています。

例えば、福島県大玉村では、平成21年度に「学校支援地域本部」を立ち上げ、村内全ての幼稚園・小中学校を統括するコーディネーターを配置し、学校側の要望に応じて地域人材を生かすことのできる学校支援を実施しています。

活動の内容は、安全パトロールや学習支援、環境整備、学校行事支援、図書館支援、保育活動支援など、幅広く展開しています。特に地域の歴史・文化的活動などの地域学習の講師、大工仕事や剪定作業など、各種保存会や趣味・特技を生かした地域の方々の協力を得て実施をしています。

漢字・算数の学力の向上のため、放課後補充学習にも取り組んでおり、現役の教員だけでなく、退職教員や福島大学の学生ボランティアが指導に入っています。放課後の学習支援に様々な立場の方が参加することで、子供たちが教員以外の大人からほめられる場面が生まれ、子供たちのやる気を引き出す効果が出ています。教員からは「子供たちにとって地域の方と直接かかわる良い機会になっている」、地域のボランティアの方からは「支援は自分の勉強にもなる。自分にとってのチャレンジのつもりで行っている。」などの感想が出ており、学校が子供たちだけでなく、地域の方々にとっても重要な居場所となっています。

また、平成23年３月に発生した東日本大震災の際に避難所となった学校において、「学校支援地域本部」を設置している学校は災害発生後、ほぼ全ての学校において順調に自治組織が立ち上がったというアンケート結果があります（宮城県の小中学校長40名への聞き取り等調査より）。地域の方からは「避難所は私たちに任せて、先生は子供たちのことを考えて」といった声があがり、自治組織が速やかに組織されるなど、緊急時の地域と学校の役割分担と共同作業がスムーズに進みました。一方で、「学校支援地域本部」の未設置校においては、およそ半数の学校において自治組織の立ち上がりに混乱が見られました。教員が子供の安否確認などに加えて避難所の運営に追われ、避難所内でも物資配給などでトラブルが見られました。

日頃より、学校と地域が連携する体制が構築されていたことにより、災害時にも学校と地域の連携が迅速

政　策

に行われた一例です。

以上の二つの事例のように、学校を通して、日頃から地域間のコミュニティを創出していくことは、地域住民が主体となった魅力あるまちづくりに向けての一助となるのではないでしょうか。

2. 地域住民の協力による学習支援

文部科学省では、平成27年度から新たに学習習慣が十分に身についていない中学生等を対象とした学習支援（地域未来塾）を推進してまいります。

地域未来塾は、学校支援地域本部を活用し、教員を志望する大学生や教員ＯＢなどの地域住民や、学習塾などの民間教育事業、ＮＰＯ法人等の協力を得て実施する原則無料の学習支援です。様々な地域住民の関わりを得ることで、多様な視点が入り、子供の状況に配慮した支援が可能となります。

平成26年9月に安倍総理大臣が葛飾区立葛美中学校で実施している、希望する生徒を対象とした放課後の学習支援活動を視察しました。指導員として、区の学校支援指導員や保護者、大学院生などが参加をしています。安倍総理は、視察後、「子供たちの学習意欲に対して、地域や学校が対応していくことの重要性を改めて認識をしました。今後、政府としては、5年間で、こうした学習支援、いま700校ですが、これを5,000校に増やしていきたいと思っています。」と政府として推進していく決意を述べられました。

3. 安心・安全に過ごし、多様な体験活動ができる放課後づくり

日本経済の成長を維持していくためには、女性の力を最大限発揮し、「女性が輝く社会」を実現するとともに、次代を担う子供たちの、一人一人が持つ可能性を最大限伸ばしていくことが最重要課題です。とりわけ、女性の活躍推進のためには、子供の小学校入学により、これまで勤めてきた仕事を辞めざるを得ない、いわゆる「小1の壁」を打破するため、児童が放課後等を安全・安心に

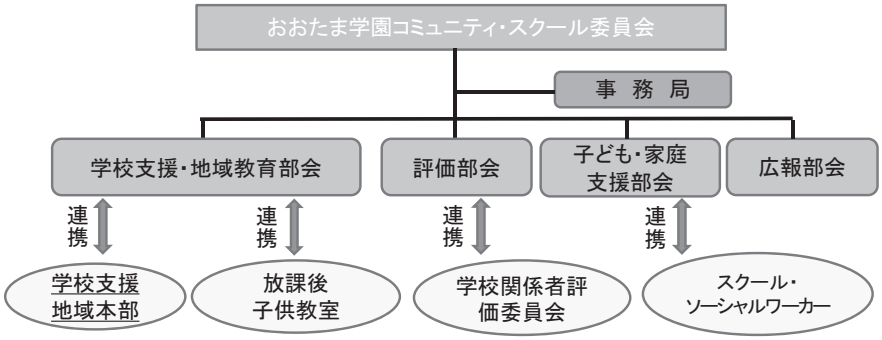
学校と放課後等の学びがつながる“横の連携”の仕組みづくり

放課後子供教室、学校支援地域本部で地域の参画意識を高め、コミュニティ・スクールに指定
（福島県大玉村）

◆コミュニティ・スクールで導入までの取組

・学校評価システムの構築（学校の現状把握＋情報の共有）
・学校支援地域本部及び放課後子供教室の立ち上げ（保護者・地域住民の参画意識を高める）
・大玉村教育ビジョンの策定（明確な教育ビジョンと共有化できる子供像の設定）
・幼小中一貫教育の推進

⇒人の異動に左右されない学校教育や、学校教育と社会教育の連携（学社融合）を実現。



安倍総理による学校支援地域本部の視察（26.9.18）
＜葛飾区立葛美中学校の夜間補充教室(がんばらナイト)＞

学習活動の視察の様子（自主学習に指導員がアドバイス）

意見交換会の様子
（指導員やコーディネーター，校長等が参加）

○地域の方々の協力により，平日の放課後に，中学生に対する学習指導をしている取組を視察

○自主学習に対して，指導員がアドバイスをするのが中心

○平成２２年度から開始し，年間約６０日実施

過ごすことができる居場所の確保を進めていく必要があります。また、次代を担う人材の育成の観点からは、共働き家庭等の児童に限られず、全ての子供たちが放課後等に学習や多様な体験活動を行うことができる環境を整備することが重要です。

このような観点から、平成26年6月に閣議決定された「日本再興戦略」改訂２０１４において、いわゆる「小1の壁」を打破し、次代を担う人材を育成するため、厚生労働省と文部科学省が共同して、「放課後子ども総合プラン」を策定しました。放課後児童クラブについては、平成31年度末までに約30万人分の受け皿を拡大するとともに、一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室を約1万か所以上とすることが盛り込まれました。

4. 地域の多様な経験や技能を持つ人材による、土曜日ならではの生きたプログラム

子供たちにこれまで以上に豊かな教育環境を提供するため、学校、家庭、地域が連携し、役割分担をしながら学校における授業や地域における多様な学習、文化、スポーツ、体験活動等の機会の充実に取り組むことが重要です。

学校における学習機会の提供の一つの方策として土曜授業を捉え、設置者の判断により、土曜授業を行うことが可能であることをより明確化するため、平成25年11月に学校教育法施行規則の一部改正が行われました。

また土曜日の教育活動の推進に当たっては、質の高い土曜授業の実施のための支援策を講じるとともに、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日ならではの教育活動を行う体制を構築し、学校と地域が連携した取組を支援することとしています。平成26年度においては土曜日に何らかの教育活動を実施予定としている学校数は約1万3千校（全国の公立学校数の約40％）となっており、文部科学省としても引き続き取組を推進してまいります。

土曜日の教育活動を推進していくためのひとつの方策として、平成26年6月に改正された「地方教育行政

大分県豊後高田市の「土曜日の教育活動」の取組事例

「学びの21世紀塾」～「学びの姿」の構築を図る～

市民講師を中心にした講座等により、確かな学力の定着や体づくりの機会を提供し、地方の子供にも平等に学習を保障して格差をなくす

知

①いきいき土曜日事業

【寺子屋講座】第１・３・５土曜日に、幼・小・中の英会話・国語・算数・数学・英語・そろばん・合唱等　他

徳

②わくわく体験活動事業

第２・４土曜日に、日頃できないようなものづくりや体験活動　他

体

③のびのび放課後活動事業

スポーツ少年団や文化活動団体等の活動支援　他

（大分県豊後高田市作成資料参考）

県内学力テストワースト2位　⇒　8年連続1位
野球やバレーボールの全国大会出場

～土曜授業に「土曜学習応援団」が参加した事例～　**岐阜市立島中学校キャリアスクール**

日時：平成26年11月8日（土）総合的な学習の時間
対象：岐阜市立島中学校1～3年生全校生徒
趣旨：地域・社会の教育力を生かし、様々な職業の理解を深めるとともに、講師の生き方や会社の志を学ぶことを通して、自分の将来を考え、主体的に自分の生き方を見つめる。

土曜学習応援団も参加しました！

押し花インストラクター「押し花はがき作り」

パナソニック「ものづくり企業の役割」

岐阜信用金庫「お金の運用について」

中日新聞社「新聞記者の仕事」

～プログラム一覧～

職業	講座名
元警察官	正しい勇気
左官業	左官
株式会社 プロスパー	プラスチック製品ものづくり
山川醸造	醤油を主役に！
岐阜信用金庫	「お金の運用」について
金融広報アドバイザー	大人になってから困らないお金の基本
岐阜地方検察庁検事	検察官の仕事と裁判員制度
税理士	税理士とはどんな職業か？
岐阜新聞広報センター長	記者の仕事
弁護士	体験！刑事裁判！！　他

全校生徒約700名が出席
18教室で多彩な職業の講師が出前授業を実施

全国で、地域や企業と連携した土曜日の教育活動が展開されています。
「土曜ならでは」のプログラムで子供たちの豊かな学びを応援しませんか？

政　策

の組織及び運営に関する法律」において、平成27年度より新たに全ての自治体に設置されることとなった総合教育会議を活用することが考えられます。首長と教育委員会が土曜日の教育活動の内容などについて協議をし、企業や地域住民等の参画を得た、土曜日ならではの活動を実施していただければと思います。

土曜日の教育活動事例として、大分県豊後高田市では、子供たちに豊かな心、確かな学力や体力を醸成することを目指し、平成14年より「学びの21世紀塾」を開講しています。教員ＯＢや塾経営者等の市民講師が中心となり、土曜日の教育活動として学習支援やパソコン講座、そろばん教室の他、平日の放課後には地域住民により野球教室やカヌー教室等のスポーツにかかわる活動支援を実施しています。

また文部科学省では、子供たちが社会で活躍する多くの大人に出会い、将来の夢や希望を持って学ぶ機会が充実するよう、多様な企業・団体・大学等に「土曜学習応援団」として御協力いただくよう呼びかけられています。2月20日現在、254の企業・団体が賛同いただいており、岐阜市立島中学校キャリアスクールでは「土曜学習応援団」を活用した土曜授業が行われました。また、全国の地域コーディネーター等と「土曜学習応援団」による意見交換会を実施するなど、文部科学省では、今後も、企業・団体・大学等の協力を得て、「土曜学習応援団」の取組を積極的に推進していきます。

貴町村におかれましても、土曜日の教育活動を企画・実施される際には、「土曜学習応援団」を是非御活用ください。

〈参考ページ〉

○「土曜日ボランティア応援団」
http://doyo.mext.go.jp/

○「学校と地域でつくる学びの未来」
http://manabi-miai.mext.go.jp/

◎**町村週報のご購読**◎
「町村週報」の購読を希望される方は、はがき、ＦＡＸまたはＥメール（kouhou@zck.or.jp）にて、全国町村会広報部までお申し込み下さい。
★年間購読料1,500円（送料込み）
★請求書を送付いたしますので、折り返しお振り込み下さい。

町村専用ページ「町村 .com」をご覧になっていますか

http://www.zck.or.jp/choson/

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村 .com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村 .com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えていますので、ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。

kouhou@zck.or.jp

・「町村 .com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。
ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。

・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み（平成18年9月27日付）ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部までメール（kouhou@zck.or.jp）でお願いいたします。

現地レポート　地域資源を活かした活性化策

▷田んぼアート「富士山と羽衣伝説」（平成26年）

稲作活性化による地域づくり

～田んぼアートを活用した地域振興～

青森県　田舎館村（いなかだてむら）

田舎館村の概要

田舎館村は、青森県津軽平野の南部に位置し、東に八甲田連峰、西に岩木山を望み、村の中央部を東西に浅瀬石川、弘前市との境を南北に平川が流れており、土地の大部分は沖積土（河水が運搬し沈積して生じた土壌）で覆われています。このように、豊かな水と肥よくな土壌は今も昔も私たちにたくさんの恵みを与え続けています。

村では、この肥よくな土壌により農業を基幹産業としながら、弘前市と黒石市の中間に位置する立地条件の良さを活かし、企業誘致を進めるなど緑と工業の調和した稲薫るふるさととして発展していく取り組みを続けています。

昭和30年４月１日に田舎館村と光田寺村が合併して誕生した本村は、面積が22・31㎢と青森県内40市町村の中で一番小さい村です。その小さな村には、縄文時代や弥生時代の遺跡が数多く確認されています。なかでも史跡「垂柳（たれやなぎ）遺跡」からは、昭和56年から58年にかけて弥生時代中期末の水田跡が６５６枚発見されています。これは、北方稲作文化発祥の地を裏付ける大発見でした。本来、高温多湿を好むとされている稲が、ここ東北北部で発見されたことは、当時東北地方には弥生時代は存在しないといわれていただけに、日本考古学史上教科書を書き換えるほどの

フォーラム

重大な発見といわれました。
　この歴史ある稲作は現在も、村の基幹産業である農業の中心に位置づけられており、過去に反収日本一を11回記録するなど県内でも有数の稲作地帯となっています。

稲作にこだわったイベントの発掘

　二千百年の歴史を誇る村の基幹産業である稲作で、何とか地域おこしができないか検討していたその時、当時の担当者が教育委員会で「垂柳遺跡」に関連させて、古代米といわれている紫色の葉の稲「紫大黒」と黄色の葉の稲「黄大黒」を作付けしている現場をみて、食用の緑とあわせ三色の稲を使って田んぼに文字と絵を書いてはどうかと発案しました。しかも、ただ植えるのではなく昔ながらの手作業での田植えや稲刈りを一般の方に体験していただき、稲作を身近に感じてもらいながら収穫の喜びを味わっていただいてはどうかということで、体験型イベントとして平成5年にスタートしたのが「稲作体験ツアー」です。
　春に裸足で田んぼに入り、一つ一つの苗を丁寧に手植え体験する「田植え体験ツアー」、秋には、春に自分で苦労して植えた稲を、一株一株鎌で刈り取り収穫の喜びを体験する「稲刈り体験ツアー」を開催しました。当時は、2千5百㎡の田んぼに簡単な「岩木山」の絵と「稲文化の村いなかだて」の文字を三色の稲を使って描いていました。参加者も数十人とこぢんまりとしたイベントでのスタートです。

△平成5年～平成13年「岩木山」
9年間は同じ図柄で

△平成14年「岩木山と月」
NHK・BS「千人の力」に挑戦

「田んぼアート」の誕生

　スタートから九年目までは、毎年同じ図柄で行っていましたが、十年目の記念の年にNHK・BSテレビの「千人の力コンテスト」に挑戦。千人の力で何ができるかを競うコンテストに、村民千人で1万5千㎡の田んぼをキャンバスにみたて、三色の稲を使って絵を描きました。これが、見事「インパクト賞」に輝き、村民の団結力が高まっていきました。これをきっかけに翌年度からは新たな試みに挑戦します。
　十一年目を迎えた平成15年には、面積は3千5百㎡と前年より小さいものの、より芸術的な作品が作れないか模索し、世界の名画「モナリザ」に挑戦しました。ところが、できあがった作品を役場6階の展望台から眺めてみたところ下ぶくれのモナリザとなってしまいました。真上から見た場合と、斜め上から見た場合のあまりの違いに思い知らされる結果となりました。しかし、これまで「稲文字」と言われていたものが、この頃から「田んぼアート」と言われるようになりました。
　十二年目からは、前年の失敗を糧に大きく成長します。遠近法により展望台から見たときに一番きれいに見えるよう調整して下絵を作るようにしたのです。そして、年々図柄は繊細になり、さらに稲の種類もどんどん増え平成24年からは7色の稲を使い分け、元祖の名に恥じない芸術作品としての「田んぼアート」を確立し、平成26年9月には天皇皇后両陛下にもご観覧いただきました。

△平成15年「モナリザ」
遠近法導入前のためぽっちゃりに

△平成16年　棟方志功作
「羅睺羅の柵と山神妃の柵」

稲作活性化にむけて

　村の基幹産業である稲作でのイベントについては、「田んぼアート」の成功により一定の成果を上げることができましたが、肝心の産業としての稲作については米価の下落など暗い話題が多く、後継者不足などで経営が危うい状況が続いています。そんな中で、明るい話題として平成26年に「第16回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」を招致することに成功しました。

フォーラム

このコンクールは、「米・食味鑑定士協会」が毎年全国各地で開催しているもので、食味計により食味値を審査する一次審査、さらに味度計により米の保水膜を測定する二次審査を通過しノミネートされたお米を、最終的には鑑定士などによる官能審査によって良食味米を表彰するもので、青森県内では初めての開催となりました。

今大会は、国内外から過去最高の4369点が出品され、その中でも特に食味の優れた最高部門である国際総合部門にノミネートされた40点の中には、本村の生産者のお米が2点選ばれました。さらに、そのうちの1点は、最高賞である金賞に青森県で初めて選出されております。

これにより、国際総合部門金賞1点、同部門特別優秀賞1点、さらに国際総合部門に惜しくも届かなかったもののうち出品都道府県で1位となったお米で競う都道府県代表お米選手権の特別優秀賞1点、小学校部門の特別優秀賞1点の計4点が入賞したことで、良食味米を栽培できる土壌で、優れた栽培技術を有する村であることが証明されました。

△第16回米・食味分析鑑定コンクール国際大会　ノミネートされたお米の炊飯の様子

△第16回米・食味分析鑑定コンクール国際大会　官能審査の様子

田んぼアートと稲作活性化の今後について

田舎館村は、海も山もない観光資源の全くない村でした。そこに、突如「田んぼアート」という大きな観光コンテンツが生まれました。平成17年、遠近法を取り入れてから2年目、この頃からマスコミにも注目されるようになり、テレビ放映されるごとに見学客がどっと押し寄せ、見頃の時期には長蛇の列をなすこともありました。

田んぼアート見学場所でもあるお城の形をした役場庁舎の天守閣部分は、もともと見学用には作られていないため、一日に見学できる人数が限られています。そのため、平成25年までは最大2時間以上長蛇の列をなして待っていただくという効率の悪さでした。見学客を分散させようと、平成24年に道の駅敷地内に第二田んぼアートを設置したものの状況は変わりませんでした。

そこで、発想を転換し見学時間の短縮が無理なのであれば、見学までの時間を有効に使っていただこうと、平成26年より入館時間を指定した整理券を発行することとしました。これにより、結果的に見学まで2時間以上あったとしてもその間は拘束せず出店での買い物や、先に第二会場を見学していただくなど、時間を有効に活用していただくことにより見学客の満足へもつながったものと思われます。

△平成21年「戦国武将とナポレオン」白を導入しより鮮やかに

本村の田んぼアートは、6月上旬から10月中旬まで見学が可能で、見頃を迎えてからも3ヶ月以上という長い見学期間があり見学者数については年々増加傾向にありますが、肝心の地元への経済効果につきましては、未だ課題が山積している状況です。本村は稲作単作地帯で特産品と呼べるものがほとんどなく、田舎館村に来たらこれを買って帰ろうというものがありません。

これからは、良食味米の生産に力を入れ、売れるお米作りを目指し、それをお土産品へと結びつけることも重要であると考えます。米・食味分析鑑定コンクールで、上位入賞が可能な美味しいお米を作れる土壌であることが証明されたことと、天皇皇后両陛下がご見学された田んぼアートの知名度により、観光と農業だけではなく、稲わらを活用した工芸品や、良食味米を生かした食品やお土産品など特産品の開発に結びつけ、商工業など地場産業との連携を強化し、活力ある村づくりに向けて努力していきたいと考えています。

田舎館村　企画観光課・産業課

随想

地球の裏側でふるさとを感じた
～ブラジル宮崎県人移住100周年に参加して～

宮崎県川南町（かわみなみ）長　日高（ひだか）　昭彦（あきひこ）

はじめに

本町は、戦前から戦後にかけて開拓事業により大きく発展したことから、日本三大開拓地として知られ、その際に全国から農業を志す開拓者が入植したため「川南合衆国」とも呼ばれている。口蹄疫からの再興に取組む畜産業をはじめ、耕種農業、漁業が営まれ、開拓の町らしく第1次産業が盛んな町だ。

さて、昨年（平成26年）は、宮崎県人がブラジルに移住して100周年という記念の年だった。現地で開催された「ブラジル宮崎県人会創立65周年及び県人移住100周年記念式典」に参加して感じた、本町とブラジルの不思議な縁について記す。

1　ブラジルへ・・・まずは感動から始まった

到着するや否や、我々日本人がブラジル国民からジャポネース・ガランチード（信頼できる日本人）と呼ばれていると聞かされたことは、大きな誇りであり、感動であった。

それは、移住者の方々が生活環境・文化・言葉の壁や過酷な労働に苦しみながらも夢や希望を失うことなく努力を積み重ね、社会に溶け込もうと生き抜かれた証であると思う。その先人達の姿に改めて敬意を表したい。

2　それにしても遠い

子供のころのジョークを思い出した。〝地面に穴を掘り続けていくとブラジルに出る。〟とにかくその道のりは遠かった。飛行機を乗り継いでの35時間の旅。機内で朝昼晩の3食を食べる経験を初めて味わった。

100年前は3カ月の船旅。想像を絶する覚悟であったろうと思う。なおかつ、無事ブラジルに到着した後の国内移動も更に過酷さが増したのは、言うまでもない。

3　不思議な縁に引き寄せられて・・・

日本にとっての最大の移住地はブラジル。日本全国から約25万人が移住し、現在では160万人を超える世界最大の日系社会である。宮崎県からは約4、000人。川南町からも118人（南米には169人）が渡られたそうだ。皆さんの知り合いの中でも数多くのブラジル移住経験者の方がいらっしゃるのではなかろうか・・・？

100年前に初めてブラジルに渡った宮崎県人が私の地区の人であり、故人に代わり記念表彰を受けた。その後70年移住が続いたが、なんと不思議なことに最後の移住者も本町出身者で、しかも私の高校までの同級生であった。宮崎県人の移住は、川南にはじまり川南で幕を閉じたのだ。

4　カルチャーショック（日本との違い）

とにかくブラジルは広い。日本の23倍。それ故におおらかな国民性なのであろう。

(1)「少々、お待ちください。」

せいぜい2～3分と思いきや、なんと1時間・・・。飛行機等の30分遅れは当たり前であり、アナウンスすらない。さすが、とてもおおらかなお国柄である。

(2)「私の農場は、すぐ隣ですから・・・。」

よく聞いたら500㎞も離れていた。東京から京都ほどに離れているのに隣なのだ。

(3)「日本の自動販売機は屋外にあるのですか？」

ブラジルだったら、すぐ壊されるそうだ。日本の治安の良さは世界に誇れる。

(4)　陽気なサンバの国。落書きもアートなのだ。

とにかく落書きが目につく。しかしよく見ると二通りあるようだ。仕事としてやっている「道のアーティストの芸術」とギャングが存在感を示すための「無秩序な落書き」。ばれたら処罰されるのだが、いかに困難な場所に、いかに見つからずに描くかを競っているらしい。

(5)　肉料理が大好き

日本人がよく言う「食べすぎたかな？」は、通用しない。その桁違いのスケールは、お見事の一言に尽きる。

今さらながら「百聞は、一見に如かず」を実感するとともに、移住をこころざし、価値観の異なる異国の地で、最大の日系社会を形成した移住者達と、鍬一本で開拓に臨み、我ふるさと川南の今を築き上げた先人達を重ね、あらゆる困難とまだ拓かれぬ未知に立ち向かった〝開拓魂〟を誇りに感じた。

人口減少が大きな社会問題となり、日本人が未だかつて経験したことの無い未知の領域に向かっている今、町民の〝開拓魂〟にもう一度火を灯し、ともに困難に立ち向かい、道を切り拓く覚悟が持てた、貴重な旅であった。

TIME of RELAXING

「ゆとり」と「やすらぎ」の ひととき

静かさと心地よさに配慮し、室内インテリア全体を落ち着いた雰囲気にまとめ、ゆったりとしたやすらぎのひとときをお届けいたします。

http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html

土・日・祝日はリーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は、平日料金の 20%OFF

金曜日のご宿泊は、平日料金の 15%OFF

和室もございますのでお問い合わせ下さい。
禁煙ルームをご用意しております。

シングル 119 室　SINGLE ROOM

平日料金10,100円より

金曜日料金

15% OFF **8,600 円より**

土・日・祝日料金

20% OFF **8,100 円より**

ダブル 12 室　DOUBLE ROOM

平日料金 13,700 円

〈2 名利用〉※1 名利用の場合 11,400 円

金曜日料金

15% OFF **11,600 円**
※1 名利用の場合 9,600 円

土・日・祝日料金

20% OFF **10,900 円**
※1 名利用の場合 9,000 円

ツイン 17 室　TWIN ROOM

平日料金19,000円より

〈2 名利用〉

金曜日料金

15% OFF **16,200 円より**

土・日・祝日料金

20% OFF **15,200 円より**

会議室・宴会場

2 階には広さと設備が多彩な、大小 4 つのホール、会議室。高い機能性を持ち、さまざまな演出が可能です。会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用いただけます。

カジュアルレストラン「ペルラン」

ランチタイム 11:00 ～ 14:00
ティータイム 14:00 ～ 17:00
ディナータイム 17:00 ～ 22:00
（21:30 ラストオーダー）

和食処「さいかち」

ランチタイム 11:30 ～ 14:30
（14:00 ラストオーダー）
ディナータイム 17:00 ～ 22:00
（21:30 ラストオーダー）

全国町村会館

市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

お電話でのご予約・お問い合わせは

TEL 03(3581)0471

FAX 03(3581)0220

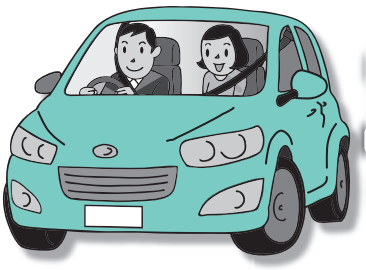
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1 丁目 11 番 35 号

WEB からのご宿泊予約は、特別料金（部屋数限定）がございます。

ホームページは　全国町村会館　検索

全国町村会館へのアクセスガイド

■有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」3 番出口徒歩 1 分
■丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩 8 分
■タクシー東京駅から約 20 分



車両共済（保険）のご案内

（一般自動車保険の車両保険）

この車両共済（保険）は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え**「ご自身のおクルマの補償（車両保険）」を追加する制度**です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済（保険）金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

●無事故による割引で新規から**42%（保険料）割引**
・ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去3年無事故の場合は、ノンフリート等級9等級からスタートします。

●集団扱年一括払いによる割引で更に**5%割引**
保険料分割払（12回）も選択可能です。
・保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の5%割引の適用はありません。

さらに 無料ロードサービスがついてきます。

ご契約のお車が、事故・故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードアシスタンス専用デスクにご連絡ください。ロードアシスタンス業者にお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。 ●バッテリー上がりや、キー閉じ込み、ガス欠など

・掛金（保険料）は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済（保険）金額、等級などにより異なります。
・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店（千里）までお問い合せください。

※この車両共済（保険）をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

（受付時間　月～金　午前9時30分～午後5時）

0120-731-087

FAX **03-3519-7325**

株式会社　千里（取扱代理店）
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-32　全国町村会館西館内
●ホームページアドレス　**http://www.chisato-ag.co.jp**

●「車両共済（保険）制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
● 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店（千里）までお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社
「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年９月１日に合併し誕生した会社です。

SJNK14-12003(2014.11.21作成)